

第2回 医療イノベーション会議 幹事会

日時： 2012年4月23日(月)13:30-14:00

場所： 内閣府本府3階 第3特別会議室

1. 石田座長より、開会の挨拶

本年2月に開催した第1回幹事会では、医療イノベーション5カ年戦略を検討していくことについて合意が得られた。その後、3月2日の国家戦略会議において、野田総理からも医療イノベーションの推進に向け取り組むよう指示をいただいた。本日は策定作業中の5ヶ年戦略の中間報告を行い、今後のとりまとめに向けて議論を行いたい。

2. 資料説明

松本室長より、資料2に基づいて、「医療イノベーション5カ年戦略（中間報告）」を説明。

3. 各構成員からの発言

○辻厚生労働副大臣／資料4参照

とりまとめていただいたので、私どもも連携をとって進めていきたい。医療イノベーション5カ年戦略として、世界をリードする革新的な医薬品・医療機器の創出及び世界最先端の医療、とりわけ個別化医療・再生医療について具体策が盛り込まれていることは大変意義深い。革新的な医薬品・医療機器の創出については、基礎から臨床応用まで支援を充実することが必要と考えているが、特に大学等から医薬品・医療機器メーカーへつながる橋渡しがこれまでなかなかうまくいかなかった。今回の5ヶ年戦略の目玉として創薬支援ネットワークが掲げられており、その中で厚労省の医薬基盤研が司令塔となって、しっかり実用化の支援をして行っていきたい。

また臨床研究中核拠点病院を15か所程度創設する等、国際水準の臨床研究体制整備を推進していきたい。

さらに医療機器については、医療現場のニーズに応える医療機器の開発を支援するとともに、医療機器の特性を踏まえた制度の見直しを進めていきたい。

個別化医療・再生医療に関しては、世界の動向を見つつ、今後関係省庁が協力して日本がリードするモデルを検討していきたい。厚労省としても、個別化医療はナショナルセンターにおけるバイオバンクの推進をおこない、再生医療では安全性と有効性を確認しながら、しっかり産業振興をはかっていきたい。

5カ年戦略期間中に、先制医療という新しい医療の在り方についても議論していくとされていることは、大変意義深い。疾患の発症前に積極的な治療を行うことにより、健康長寿社会を目指す先制医療がどういうものでこれまでの医療にどのような影響を及ぼしていくのか、丁寧に関係者と議論をしながら進めていきたい。

これらの取組により、日本が世界から注目され、海外に積極的に発信できる医療の姿を今後とも描き努力していきたい。

なお、配布資料（資料4）について、当面の具体的な取組として配布した資料にあるように、ライフ・イノベーションの一体的な推進、東北発革新的医療機器創出・開発促進事業等を進めていきたい。こうした取り組みを通じて新しい薬等を患者により早く届けるとともに、医薬品・医療機器産業を我が国のリーディングインダストリーとしたい。